

2019年度(令和元年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|------------------|-------------|
| 城西中学校区 | 校番23 | 福山市立 城西中 学校 |
| 最終更新日 | 2020年(令和2年)2月28日 | |

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

| | | | |
|--|--|--|---|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 ○中学校区で課題を共有し、授業づくり、学力向上、表現力・忍耐力の育成、メディアの取組など小中連携して取り組み、成果が上がってきている。 ●学習面の共通課題については、連携して重点的に取り組んではいるが、成果が十分に上がっていない。 | 児童生徒の現状 ○H30年度「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙で国語・算数数学・英語において、3校とも「授業がわかる」80%以上であった。 ○小中合同ボランティア活動等の活動を通して、児童生徒の人間関係が広がり、地域への貢献の意識が高まった。 ●学習用語の正しい理解、考えを書く力に課題がある。 | 育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” コミュニケーション力・表現力・忍耐力 | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども |
| | | 中学校区として統一した取組等 | ○生徒指導規程を生かした指導を行う。 ○「自ら考え学ぶ授業づくり」(「課題解決型の授業づくり」「考えを伝え合う活動を効果的に取り入れた授業」)の研究・研修を行う。 ○校区スタンダードによる「家での5つの約束」の推進を図る。 |

III 自校

| | | | | | |
|---|---|-----------|---|----------------|--|
| ミッション 「明るく生き生きと安心して生活できる学校」をめざし、生徒、保護者、地域、職員が誇りを持って全ての人から愛される学校づくり。 | 育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” コミュニケーション力・表現力・忍耐力 | | | | |
| 学校教育目標 心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成 | めざす子ども像 全学年 【自己肯定感を高め、自分の考えを持ち、自分の言葉で適切に表現できる。】 ○生徒は、学校、地域・社会のボランティア活動に進んで参加をしている。 ○生徒は、課題解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。 ○生徒は、「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場で自ら活動している。 ○生徒は、協力し合う喜び、授業がわかる喜びを味わっている。 | | | | |
| 現状 <児童生徒> ・各種調査において成果の出ている教科もあるが、全教科の学力の向上に至っていない。各教科において基礎的な問題の定着が不十分な領域があり、課題である。 ・家庭学習の時間や内容、授業に向かう姿勢においては、改善されてきている。 <授業・実践> ・すべての教科で、指導案作成、研究授業による研修を行い、生徒作品(言語活動)の作成が行われており、実践内容の交流・研修ができた。 ・自主ノートの内容の向上も図る取組を加え、家庭学習の充実が徐々に図られている。 ・メディアの取組を中心に、校区での取組も定着し、望ましい生活習慣の確立へ向け、一定の成果があげられた。 ・不登校対策委員会を実施し、組織的な取組にすることはできたが、課題も残った。 | <table border="1"> <tr> <td> 研究 </td> <td> 教科等 特別活動 自分の考えをもち、自分の言葉で適切に表現できる生徒の育成 ～自ら学ぶ場、協働的な学びの場の工夫を通して～ 1各評価指標の分析を基にした授業改善 2全教科・領域で豊かで効果的な言語活動と思考力育成の場を取り入れた授業の創造 3協働的な学びの創造 4学力に課題が大きい児童生徒への支援と学習内容の創造 </td> </tr> <tr> <td> めざす授業の姿 </td> <td> ・共通の課題が設定され、生徒は解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。 ・「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場が設定され、生徒は自ら活動している。 ・個の課題に合わせた支援が適切に行われ、生徒はわかる喜びを味わっている。 </td> </tr> </table> | 研究 | 教科等 特別活動 自分の考えをもち、自分の言葉で適切に表現できる生徒の育成 ～自ら学ぶ場、協働的な学びの場の工夫を通して～ 1各評価指標の分析を基にした授業改善 2全教科・領域で豊かで効果的な言語活動と思考力育成の場を取り入れた授業の創造 3協働的な学びの創造 4学力に課題が大きい児童生徒への支援と学習内容の創造 | めざす授業の姿 | ・共通の課題が設定され、生徒は解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。 ・「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場が設定され、生徒は自ら活動している。 ・個の課題に合わせた支援が適切に行われ、生徒はわかる喜びを味わっている。 |
| 研究 | 教科等 特別活動 自分の考えをもち、自分の言葉で適切に表現できる生徒の育成 ～自ら学ぶ場、協働的な学びの場の工夫を通して～ 1各評価指標の分析を基にした授業改善 2全教科・領域で豊かで効果的な言語活動と思考力育成の場を取り入れた授業の創造 3協働的な学びの創造 4学力に課題が大きい児童生徒への支援と学習内容の創造 | | | | |
| めざす授業の姿 | ・共通の課題が設定され、生徒は解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。 ・「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場が設定され、生徒は自ら活動している。 ・個の課題に合わせた支援が適切に行われ、生徒はわかる喜びを味わっている。 | | | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 城西中 学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | 最終評価(2月末) | | | | | |
|----|-------------|----|----|------------------|----------------------------------|--|---|------|------|---|---|------|------|------|--|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | 力以評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 | 力以評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 |
| 1 | 学力の確実な定着・向上 | ★ | 新規 | 授業改善の一層の推進【小中一貫】 | ○「主体的な学び」を目指した授業づくり・授業改善を積極的に行う。 | △「全国学力状況調査」・標準学力調査において通過率を県・市平均以上にする。 △生徒アンケートで『授業で考えることが面白い』の肯定的評価を85%以上にする。 | ・「全国学力状況調査」において県差が国語-1 数学-5 英語0であった。標準学力調査においては1学年では上回っている教科が多く、2学年では下回っていた。 ・生徒アンケートで「授業で考えることが面白い」82%であった。 | 3 | 3 | ・各種調査から生徒のつまずきを把握し、分析に基づいた授業改善を行う。また、基礎学力における課題について個への支援を行う。 ・全授業で主体的で対話的な授業を積極的に取り入れるために、「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場についてさらなる工夫を行う。 | □生徒アンケートで『授業で考えることが面白い』84%で、前回比+2であった。 ◎調査よりつまずきを把握し、分析に基づいた授業改善を行った。また、基礎学力における課題について個への支援を行った。 | 4 | 3 | 3 | 各教科において、日々の授業とテスト結果の関連をテーマに生徒のつまずきを分析するなどの取組を継続する。 |
| | | | 継続 | 家庭学習の充実【小中一貫】 | ○自主ノートの内容の充実を図るとともに、毎日の提出をやり切る。 | △自主ノートや教科の課題をすることで、家庭学習1時間30分以上の生徒を70%以上、1時間以上の生徒を85%以上にする。 | ・自主ノートのページを4分割することで、複数の教科を勉強したり、何度も書くことで覚えたりと工夫をして取り組む生徒が増えた。 ・生徒アンケートで家庭学習「1時間30分以上」48%「1時間以上」80%であった。 | 3 | 2 | ・教科の課題や学年の課題(自主ノート)を意図的・計画的・継続的に仕組む。 ・モデルとなる生徒の自主ノートを掲示するなどし、質の高い学習方法を共有する場を設定する。そのことにより、生徒の家庭学習への意欲を高める。 ・家庭学習の不十分な生徒に対して、家庭と連携しながら個への支援を行う。 | □生徒アンケートで家庭学習「1時間30分以上」49%「1時間以上」73%であった。 ◎質の高い目的意識を持った自主ノートを共有する場の設定により、効果的な家庭学習への意識を高めた。 | 3 | 3 | 3 | 質の高い学習方法・効果的な学習方法を共有し、学力の向上につながるよう意欲を高める。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|---|-----|-----------------------|--|---|---|---|--|--|---|---|---|--|
| 2 | 自己指導能力 (主体性・積極性)の育成 | ★ | 継続 | 自己肯定感の高揚 | ○自分磨きや協力で応援をもらう行動をとる。 △生徒アンケートで『応援をもらう行動ができた』の肯定的評価を85%以上にする。 | ・生徒アンケートで「応援をもらう行動ができた」83%であった。 | 3 | 3 | ・ <u>応援カードの取組みを継続し、学校行事や部活動などでリーダーシップを発揮させ、自己肯定感を高めていく。</u> ・ <u>生徒会の点検活動では、「できているところ」に目を向けさせる声かけを行い、表彰をする。</u> | □生徒アンケートで「応援をもらう行動ができた」81%であった。 ◎QUアンケート等に基づく全員面談の実施、生徒主体の行事運営の実施により、自己肯定感を高める取組は進められた。 | 3 | 2 | 3 | 生徒主体の活動や、生徒同士が互いに認め合う活動を意図的に仕組む。 |
| | | | 継続 | 望ましい生活習慣の確立 【小中一貫】 | ○生徒会を中心にした点検活動を行う。 ○保護者へ通信等で呼びかけ、協力を得る。 △テスト期間中にメディアに接する時間が1時間未満の生徒の割合を80%以上にする。 | ・生徒アンケートで「テスト期間中にメディアに接する時間が1時間未満」76%であった。 | 3 | 3 | ・ <u>ノメディアの取組を継続する。</u> ・ <u>校区でノメディアの標語づくりをし、意識を高める。</u> ・ <u>長時間メディアに接している子への個別指導をする。</u> | □生徒アンケートで「テスト期間中にメディアに接する時間が1時間未満」60%であった。 ◎テスト期間中の取組が徹底できていない。 | 3 | 2 | 3 | 指導方法と評価基準の見直しが必要である。 |
| 1 | 組織的・積極的な指導体制の充実 | ★ | 見直し | 「社会的な自立」に向けた支援の充実 | ○保護者、関係機関との連携を図り、不登校生徒の減少に取り組む。 △新規の長期欠席生徒を0にする。 | ・新規の長期欠席生徒が1名であった。 ・これまで長期欠席であった生徒の状況も改善傾向にある。 | 4 | 3 | ・ <u>学校カウンセラー・学校相談員と連携をして教育相談・家庭訪問を計画的に実施する。</u> ・ <u>QUアンケートの結果を踏まえた個人面談・学級経営・学校経営を行っていく。</u> | □年間30日以上欠席者20名 ◎外部機関との連携をとり、登校状況を改善していくよう取組を行うことができた。 | 3 | 2 | 3 | 今年度の取り組みを継続しつつ、生徒の「仲間づくり・居場所づくり」を意識した学活の在り方について取組を進める。 |
| | | ★ | 新規 | 生徒と向き合う時間の確保 | ○一層の業務改善を進め、生徒と向き合う場や時間を確保する。 △『授業づくりにあてる時間が確保できている』の肯定的評価を50%以上にする。 | ・「授業づくりにあてる時間が確保できている」32%であった。 | 3 | 2 | ・ <u>学校全体で授業づくりを確保する時間をつくる。</u> ・ <u>丁寧な対応や指導方針の説明を心がけ、授業改善と業務改善をセットで進めていく。</u> | □「授業づくりにあてる時間が確保できている」63%であった。 ◎放課後の時間を生み出す工夫等、業務改善の取組を行った。 | 3 | 4 | 4 | 通信やHP・メール配信などで丁寧な情報発信をし、授業改善と業務改善をセットで進めていく。 |

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------|-----------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |